

小学校の適正規模に関するアンケート 結果傾向とまとめ

平成 31 年 2 月 4 日

海津市小中学校の適正規模等に関する検討委員会

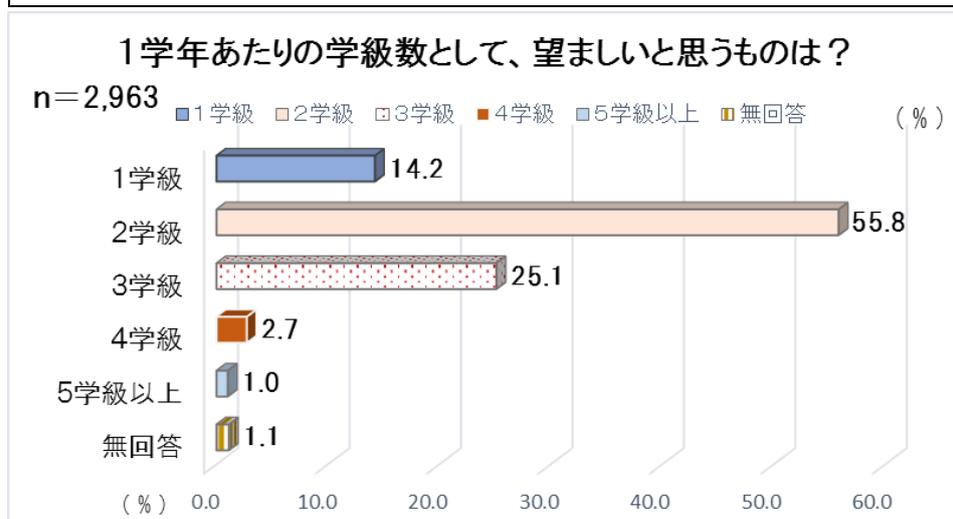
I. はじめに

今回の「小学校の適正規模に関するアンケート」において、(A) 保護者・地域代表用では、市内各校区からほぼ人口に比例して、各地域からの回答を得ることができた。社会調査の一般的なサンプリング調査において望ましいとされている誤差5%を下回っている状況であり、(B) 教職員・保育教諭用や(C) 児童用の回収率も100%であることから保護者・地域代表や教職員・保育教諭および小学生児童（以下「市民・教員・児童」という。）の意識の全体的な傾向を把握するうえで非常に参考となる結果でありました。

アンケート結果の分析から、市民・教員・児童の意識をまとめると、次のようなことがいえる。

II. 調査結果からみる市民・教員・児童の意識

1. 1学年あたり学級数として望ましいのは？「1学級当たり2学級（2クラス）」が望ましいとする市民・教員・児童が最も多い。

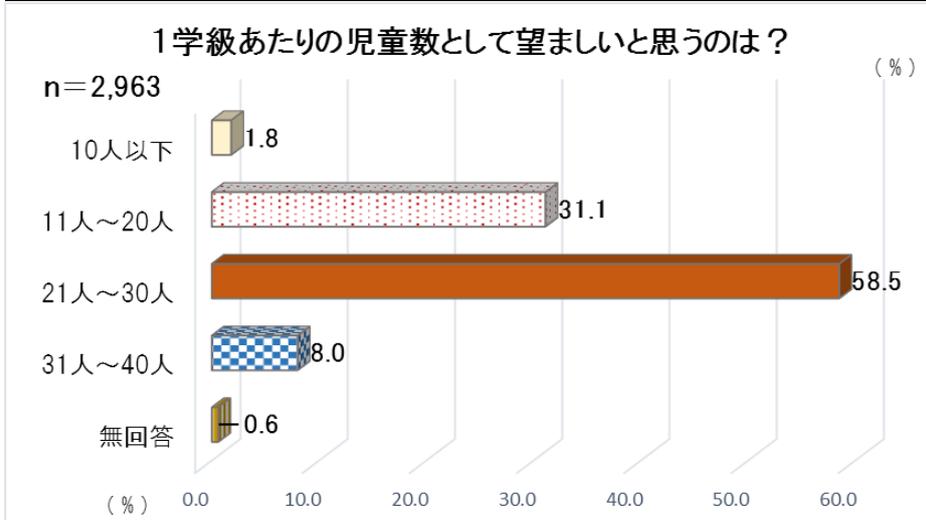


回答者全体(N=2,963 「内訳 (A)保護者・地域代表用=1,822 (B)教職員・保育教諭用=280 (C)児童用=861」)では、55.8%が「2学級」が望ましいと回答している。

なお、それぞれのアンケート種類別の回答は、(A)保護者・地域代表用が12ページ、(B)教職員・保育教諭用が50ページ、(C)児童用が68ページにおいても同様であります。

ただし、(C)児童用の回答の単級規模校においては、「1学級」が良いとの回答が、59.4%と複数規模校においては、「2学級」が良いとの回答が61.5%と5割を超える割合になりました。この割合においては、小学生児童があまり変化を求めている「現状ままで良い」とする(C)児童用の問9での回答傾向にも表れています。

2. 1学級あたりの児童数として望ましいのは？「21人～30人」が望ましいとする市民・教員・児童が最も多い。

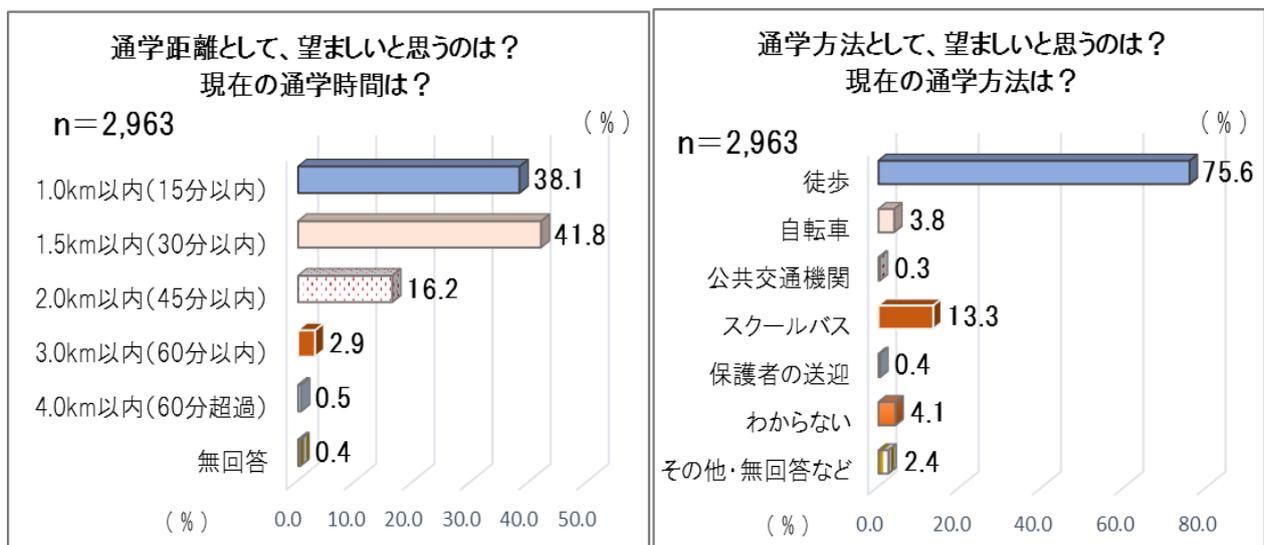


回答者全体(N=2,963)では、58.5%が「21人～30人」が望ましいと回答している。

なお、それぞれのアンケート種類別の回答は、(A)保護者・地域代表用が15ページ、(B)教職員・保育教諭用が54ページ、(C)児童用が67ページにおいても同様であります。

ただし、(C)児童用の回答の単級規模校においては、「11人～20人」が良いとの回答が、66.8%と複数規模校においては、「21人～30人」が良いとの回答が56.6%と5割を超える割合になりました。この割合においても、前頁と同様に小学生児童があまり変化を求めている「現状ままで良い」とする(C)児童用の問9での回答傾向にも表れています。

3. 児童の通学距離（時間）と通学方法として望ましいのは？「徒歩」で「1.5km（徒歩約30分 自転車9分）以内」が望ましいとする市民・教員・児童が最も多い。

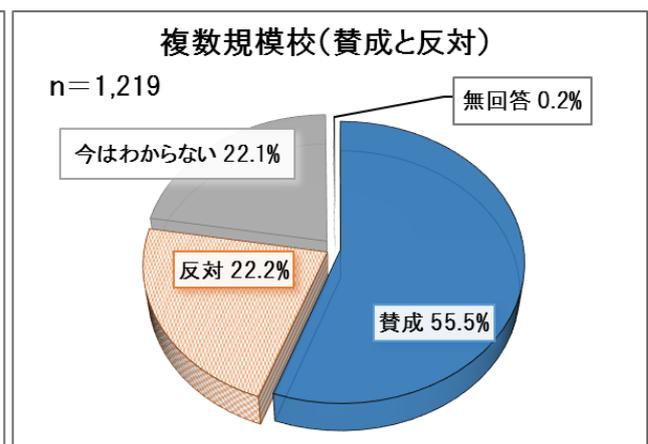
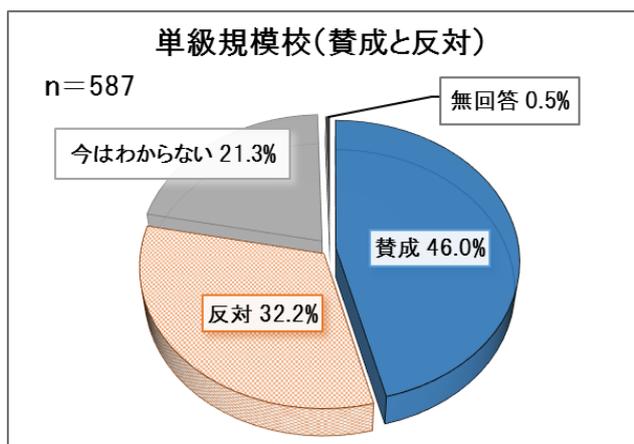
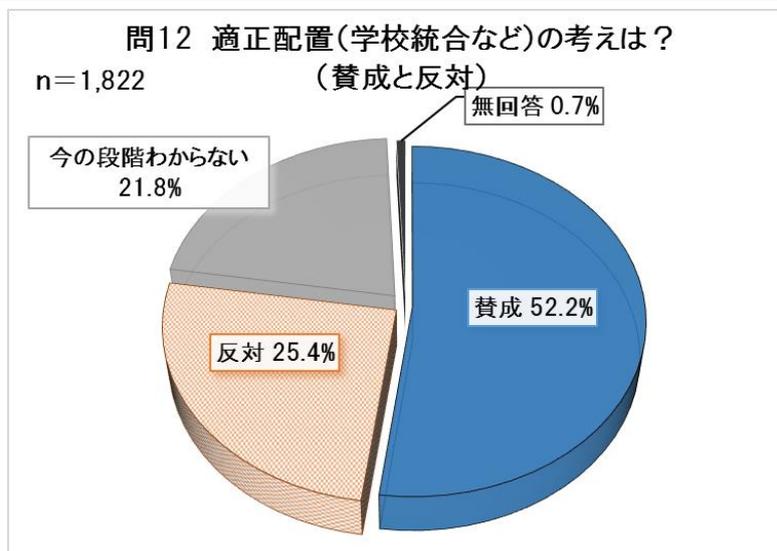


回答者全体(N=2,963)では、通学方法は「徒歩」で通学距離は「1.5km以内(徒歩30分以内)」が望ましいと回答している。

なお、それぞれのアンケート種類別の回答は、(A)保護者・地域代表用が18ページ、(B)教職員・保育教諭用が57ページ、(C)児童用が65、66ページにおいても同様であります。

また、(A)保護者・地域代表用のその他意見では、通学距離に応じた通学方法が望ましい(例えば徒歩だけでなく自転車、スクールバスと距離に応じた通学)などの意見を多くいただいております。

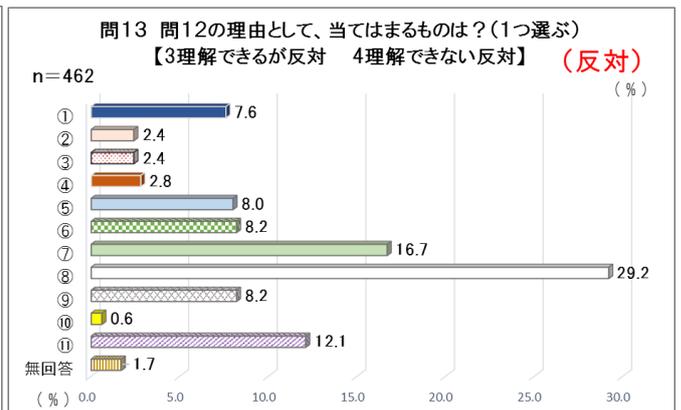
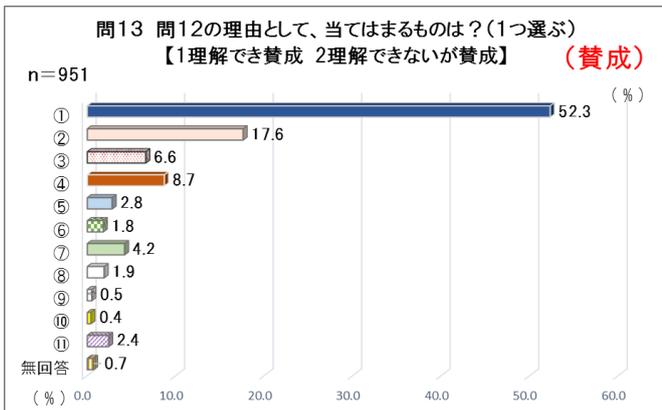
4. 適正配置(学校統合など)としてあなたの考えにちかいは?問いでは「賛成」が52.2%で「反対」が25.4%、「今の段階わからない」が21.8%となりました。



(A)保護者・地域代表用(N=1,822)では、賛成が52.2%と過半数を超えている。しかし、単級規模校では、46.0%と過半数を満たしていない状況でありました。

また、「今の段階わからない」との回答も全体、単級規模校、複数規模校でも約20%以上あり今後の動向によっては、賛成・反対の割合に影響があると思われます。

5. 適正配置（学校統合など）の「賛成」の理由は、「①クラス替えができることで人間関係が固定化されにくく、多様な考えに触れ人間関係づくりの能力が高まる。」が多く、「反対」の理由は、「⑧学校は地域とともに歩んできた歴史があり地域の衰退につながる」などが多く割合を占めている。

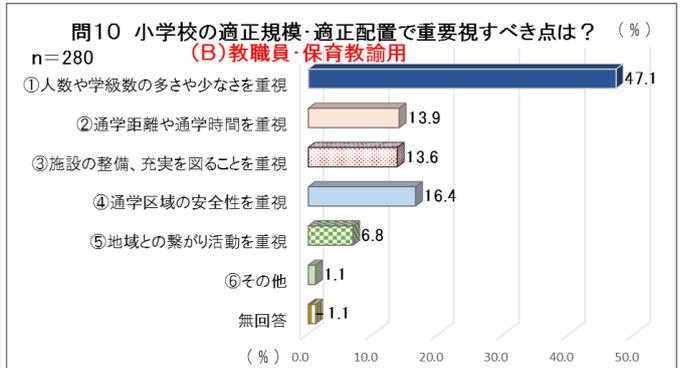
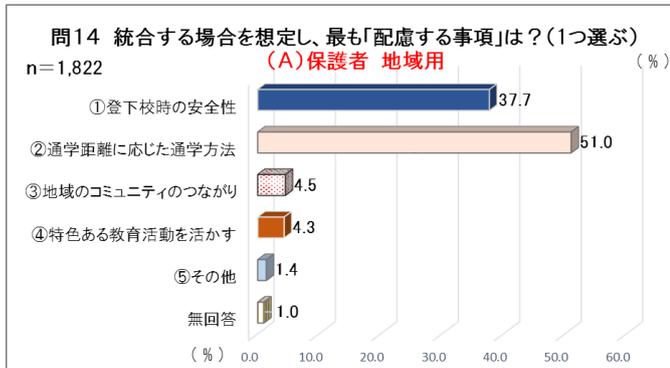


「賛成」する理由として、最も多いのが「①クラス替えができることで人間関係が固定化されにくく、多様な考えに触れ人間関係づくりの能力が高まる。」との回答です。これはクラス替えができることで人間関係の固着がなく、多種多様な考えに触れて育ってほしい。との願いが感じられます。また、同じく(A)保護者・地域代表用の問11(22ページ)では、「複式学級になることについての考えは？」との問いに対し、回答が一番多いのは(④教育効果を考えると、多種多様な意見を得られない)も同じような考えであることが見られます。

次に「反対」する理由は、「⑧学校は地域とともに歩んできた歴史があり地域の衰退につながる」が29.2%です。また、その他意見としての主な回答の中では、(29ページ)「統合を考えた場合、通学距離が長くなるため不安である」とか「学校が遠くなることで、親や子供の負担が大きい」、「児童や保護者の負担を考えると賛成できない」などの「負担」や「不安」があることで反対であるとの意見をいただいています。

次に前頁で約20%以上ある「今の段階わからない」との回答において、その他意見としての主な回答のなかでは、(30、31ページ)「具体的な方向性が理解できないので今はわからない」とか「賛成ですが通学が大変になる子供がかわいそうなのでそのバランスがどのようなのか今の段階わからない」、「……ケースごとに個別に判断すべき事で、今の段階わかりません」との意見をいただいています。

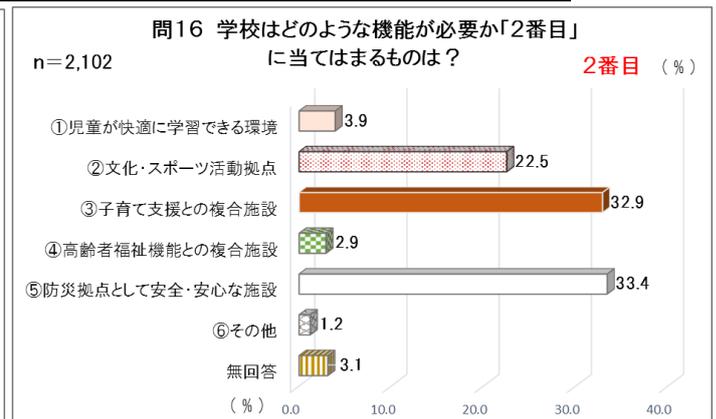
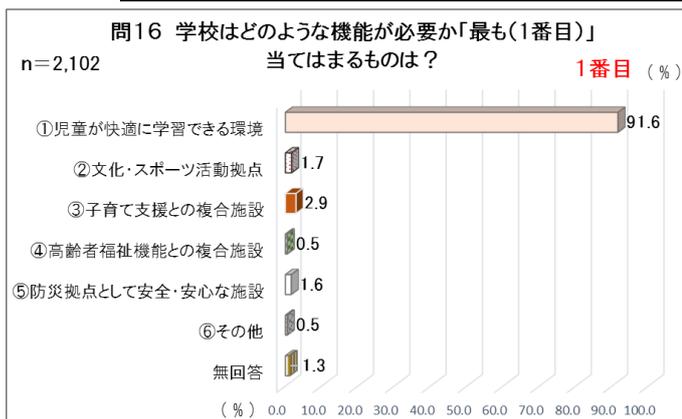
6. 統合する場合を想定して配慮する事項は？との問いでは、「登下校の安全性」と「通学距離に応じた通学方法」が多く、(B)の小学校の適正規模・適正配置で重要視すべき点は？との問いでは、「人数や学級数の多さや少なさを重視」との回答が多く割合を占めている。



(A)保護者・地域代表用(N=1,822)の問14の配慮する事項は、「①登下校の安全性」と「②通学距離に応じた通学方法」を合わせて88.7%と約9割を占めています。

(B)教職員・保育教諭用(N=280)の問10の小学校の適正規模・適正配置で重要視すべき点は、「①人数や学級数の多さや少なさを重視」が47.1%で次に「④通学区域の安全性を重視」16.4%と通学に関する事項が多く占めています。

7. 学校がどのような機能が必要か？1番目に当てはまる事は、「①児童が快適に学習できる環境」で2番目に当てはまる事は、「⑤防災拠点として安全・安心な施設」が当てはまるとの市民・教員が最も多い。



(A)保護者・地域代表用と(B)教職員・保育教諭用(N=2,102)では、1番目に当てはまる回答として、「①児童が快適に学習できる環境」が91.6%と大部分を占めています。

また、2番目に当てはまる回答は、「⑤防災拠点として安全・安心な施設」と「③子育て支援との複合施設」が約33%となっています。

なお、それぞれのアンケート種類別の回答は、(A)保護者・地域代表用が35ページ、(B)教職員・保育教諭用が59ページにおいても同様であります。



～ アンケートご協力のお礼 ～

貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。